

令和 6 年度 政務活動費支出整理簿

会 派 名 公明党

氏 名 高橋 正人

項 目	調査研究費		
費 目	旅費		
整理番号	月 日	支出額 (円)	支 出 内 容
1	6 / 19	91,620	八戸圏域連携中枢都市圏形成促進議員連盟 総務省視察 旅費、宿泊費（東京都）
1-1	/		JR乗車券・特急券 八戸⇄東京 29,260円 東京都宿泊代11,100円
1-2	/		JR乗車券・特急券 八戸⇄東京 40,960円 東京都宿泊代10,300円
2	1 / 27	135,880	調査視察 旅費・研修費（神奈川県横須賀市、高知県須崎市・南国市） （日程、視察先等は調査視察等届出書等に記載）
2-1	/		JR代 八戸～横浜（往復） 41,340円 航空券 羽田⇄高知 43,640円 高知市宿泊代 19,800円 貸切バス代 19,800円
2-2	/		横須賀市宿泊代 9,500円
2-3	/		空港連絡バス代（高知空港⇒はりまや橋） 900円 空港連絡バス代（はりまや橋⇒高知空港） 900円
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
小 計		227,500	備 考
合 計		227,500	

※案分による支出の場合は、案分率等を支出内容欄に記入してください。

第3号様式（第6条、第8条関係）

令和6年5月29日

会派名 公明党

代表者名 中 村 益 則 様

氏 名 中 村 益 則
土 嶺 直 樹

調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

- 1 旅行者 中 村 益 則 議員、土 嶺 直 樹 議員
- 2 期 間 令和6年6月19日(水) ～ 令和6年6月20日(木)
- 3 場 所 東京都千代田区
- 4 目的及び内容 八戸圏域連携中枢都市圏形成促進議員連盟視察
「連携中枢都市圏の推進について」
- 5 支出可能額（上限額） 109,720円
【内訳は、旅費額計算書（第4号様式）に記載のとおり】

第4号様式（第6条、第8条関係）

旅 費 額 計 算 書

旅 行 日 程			旅 費 計 算 の 基 礎					
行	6/19	本八戸駅発 13:56	区 分	基 数	単 価	金 額	備 考	
き	6/19	東京駅着 17:04	早見表					
帰 り	6/20	東京駅発 13:20						
	6/20	本八戸駅着 16:30						
経路・滞在地 別紙のとおり			鉄道運賃		638.0k	9,790	17,620	本八戸⇄東京（往復割引）
			急 行 料 金	特	2	6,270	12,540	八戸⇄東京 631.9k
					2	△200	△400	閑散期割引(6/19, 6/20)
			急					
			特別車両 料 金		2	5,600	11,200	八戸⇄東京 631.9k
			航空運賃					
			バス運賃					
			宿泊料	1	13,900	13,900	6/19 東京都内泊	
小 計					54,860			
合 計（小計×人数）					109,720	2名		

八戸圏域連携中枢都市圏形成促進議員連盟 視察日程表

・日程:令和6年6月19日(水)～6月20日(木)

・場所:東京都千代田区

月 日	行 程	宿 泊
6/19 (水)	13:56 発 本八戸 - JR八戸線 - 八戸 - JRはやぶさ28号 - 東京 17:04 着	東京都内
6/20 (木)	9:30 総務省前集合 9:30 ~ 入館手続き 9:45 ~ 10:20 総務省自治行政局市町村課 勉強会 「連携中枢都市圏の推進について」 10:30 ~ 10:45 自治行政局官房総括審議官 海老原 諭 氏との意見交換会 13:20 発 東京 - JRはやぶさ25号 - 八戸 - JR八戸線 - 本八戸 16:30 着	

令和6年6月23日

会派名 公明党

代表者名 中村益則様

氏名 中村益則
土嶺直樹



調査視察等報告書

令和6年5月29日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告します。

- 1 旅行者 中村益則議員、土嶺直樹議員
- 2 期間 令和6年6月19日(水)～令和6年6月20日(木)
- 3 場所 東京都千代田区
- 4 行程
6月19日 本八戸～JR～八戸～JR～東京
6月20日 東京～JR～八戸～JR～本八戸
- 5 支出額 91,620円
- 6 概要 別紙のとおり

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項 目	調査研究費	費 目	旅 費	整理番号	1 - 1
領 書 等 貼 付 欄	中村 雄 様 金29,260円 ただし、乗車券類代 (クレジットカードによるご利用分)として、上記金額を受領しました。 適用税率 10% 本領収証は時間がたつと文字が薄くなる場合がありますので、 長期間保存する場合はコピーをお取り下さい。 東日本旅客鉄道株式会社 登録番号 T9011001029597 本/V802 No.000005 印 紙 税 申 告 納 付 に つ き 淡 谷 税 務 署 承 認 済 2024年 6月12日 領 収 証				

※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないよう

領収書等貼付用紙

項目	調査研究費	費目	旅費	整理番号	12
領収書等貼付欄					
領収書 兼 利用明細書					
中村益則 様					
領収金額		¥11,100			
宿泊代		¥11,000			
**宿泊税		¥100			
小計		¥11,100			
10%対象		¥11,000			
宿泊税		¥100			
合計		¥11,100			
		** 非課税対象			
現金		¥11,100			
部屋番号 : 1218					
宿泊期間 : 2024/06/19 - 2024/06/20					
アバホテルブライド〈赤坂国会議事堂前〉					
TEL 03-5157-2811					
アバホテル株式会社					
登録番号:T4010401043403					
取引番号:079003P061936940 2024/06/19 17:35					
・本領収書は再発行できません。					

※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

発行日 2024年05月22日12時22分
発行番号 No.E960200038400490619

えきねっと ご利用票兼領収書
下記の金額を、確かに領収しました。

東日本旅客鉄道株式会社
登録番号 : T9011001029597

宛名	土嶺 直樹 様
金額	¥40,960(税込10%) クレジットカード利用(カード番号下4桁 : XXXXXXXX)
但し	きっぷのご購入代金として

きっぷの明細 (行きの列車)

予約番号	E96020
購入日	2024年05月22日
乗車日	2024年06月19日
列車名・区間	○はやぶさ2 8号グリーン(乗車券込み) 八戸 → 東京
ご利用人数	おとな1名

発行日 2024年05月22日12時22分
発行番号 No.E960200038400490619

えきねっと ご利用票兼領収書

東日本旅客鉄道株式会社
登録番号 : T9011001029597

きっぷの明細 (帰りの列車)

予約番号	E96020
購入日	2024年05月22日
乗車日	2024年06月20日
列車名・区間	○はやぶさ39号グリーン(乗車券込み) 東京 → 八戸
ご利用人数	おとな1名

領収書等貼付用紙

項目	調査研究費	費目	旅費	整理番号	1-2
領収書等貼付欄					

御請求明細書

STATEMENT

No. 90763
Rsv. 127739
Date. 2024/06/20御芳名 土嶺 直樹
Name様 株式会社機山館
登録番号T4010001002024

部屋 Room No.	利用日 Date	泊数 Nights	人数 Person	頁 Page
201	2024/06/19	1	宿泊:大1	0-1/1

ホテル機山館 kizonkan

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-37-20
TEL:03-3812-1211 FAX:03-3816-1218

日付 Date	部屋 Room No.	名称 Description	数量 Qty	単価 Price	金額 Amount	備考/入金 Note/Received
06/19		大人朝食付 宿泊税 (宿泊:大1)	1	10,300	10,300	込
		小計			0	
		現金			10,300	10,300
		入金計				10,300
		内消費税 (10%対象)			(936)	

10%対象 税込金額

¥10,300 (内消費税額

¥936)

利用合計① Total	¥10,300	入金合計② Received	¥10,300	請求額①-② Amount Due	¥0
----------------	---------	-------------------	---------	----------------------	----

(内消費税 ¥936)

御署名
Signature領収書
RECEIPT御芳名 土嶺 直樹
Name

様

No. 90763
Rsv. 127739
Date. 2024/06/20
株式会社機山館
登録番号T4010001002024領収金額
Total Amount ¥10,300.-

(税込代金 ¥10,300 内消費税 ¥936)

(10%対象 ¥10,300 内消費税 ¥936)

印紙

☐ クレジットカード扱い
Use of the Credit Card

ホテル機山館 kizonkan

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-37-20
TEL:03-3812-1211 FAX:03-3816-1218

第6号様式（第7条、第8条関係）

活 動 記 録 簿

会派・議員名 公明・土嶺直樹

項 目	調査研究費			
年 月 日	令和6年6月20日（木）			
場 所	総務省（東京都千代田区霞が関二丁目1番2号）			
相 手 方	総務省大臣官房総括審議官 海老原 諭 氏 総務省自治行政局市町村課長 原 昌史 氏 総務省自治行政局市町村課 課長補佐 浅見 仁 氏			
参加者氏名	土嶺直樹、中村益則			
目的・内容・結果等	人口減少社会において、地方から都心への人口流出を食い止めると同時に経済を安定させ、持続可能な地域社会をつくることが連携中枢都市圏を構築する目的である。地方公共団体はかつて、市町村合併を繰り返し講じることによって地方行政の整備を進めてきたが、社会の多様性に対応する観点から、自治体行政の在り方自体を見直す必要がでてきた。合併により、1つの自治体として一元化するのではなく、複数の自治体が独立性を保ちながら、特定の分野や事業で協力・連携することで、地域特性やニーズに応じた連携体制を構築することが可能となるのである。2040年問題を見据えた今、連携中枢都市圏構想の推進は非常に重要である。			
経 費	費 目	内 容	金 額	備 考
	旅費	JR代（東京―八戸）	40,960円	土嶺
	旅費	宿泊代（ホテル機山館）	10,300円	土嶺
	旅費	JR代（東京―八戸）	29,260円	中村
	旅費	宿泊代（アパホテルブライド）	11,100円	中村
備 考				

研修の概要

【1. 日本の人口の推移・2040年の課題】

- 我が国の人口は、戦後、増加を続けていたが、2008年の1億2808万人をピークに減少局面に入った。
- 2040年には1億1092万人（2008年比▲13.4%減）となり、65歳人口は、2042年に3935万人でピークを迎える。
- 出生率は、第2次ベビーブームをピークに一貫して減少しており、近年は年間100万人を下回っている。
- 合計特殊出生率も、一時は上昇傾向にあったが、平成28年から再び低下基調に転じている。
- 人口構造は、2040年には団塊世代および団塊ジュニア世代が高齢者となっており、人口ピラミッドは、いわゆる棺おけ型になる。
- 2040年までの課題として、老朽化したインフラ・公共施設の大幅な増加、公営企業の料金の上昇、乗り合いバスや鉄道の廃止路線の増加、集落機能の維持が困難になるおそれ等が懸念されている。
- 労働力においては、高齢者と女性、若者の労働参加が進まなければ、労働力不足が顕著となる。また、就職氷河期世代は長期にわたり給与が低い傾向にある。そして、地方においては労働集約型サービス産業が増加する。
- 地方公共団体の専門人材の状況として、小規模市町村においては、専門職員が配置されない、又は配置されたとしても小人数しか配置されない状況がある。

【2. 市町村合併から広域連携へ】

- 市町村は、市制町村制（明治22年）以降、合併や広域連携施策を繰り返し講じることで、人口増加や経済成長、地方分権に伴う行政需要の増大・高度化に対応できる地方行政体制の整備を進めてきた。
- 今後は、人口減少に対応する観点から、自治体行政の在り方を見直す必要がある。
- 2040年頃にかけて生じる人口構造の変化やインフラの老朽化等の変化・課題に的確に対応し、持続可能な形で住民生活を支えるためには、地方公共団体がそれぞれの強みを活かし、資源を融通しあうなど、地域の枠を超えた連携が重要である。
- 他の地方公共団体との連携は、地域の実情に応じ、市町村間の広域連携、都道府県による補完・支援など、多様な手法の中から、最も適したものを選択することが適当である。

【3. 連携中枢都市圏構想の取組】

1. 連携中枢都市及び連携市町村の取組に関する包括的財政措置
 - ①普通交付税措置
 - ②特別交付税措置
 - ③連携市町村への交付税措置
2. 地域活性化事業債の充当
3. 外部人材の活用に対する財政措置
4. 民間主体の取組の支援に対する財政措置
 - ①民間への融資等を行うファンド形成に関する財政措置
 - ②ふるさと融資の融資比率及び融資限度額の引き上げ
5. 個別の施策分野における財政措置
 - ①病院連携等による地域医療の確保に対する財政措置
 - ②へき地における遠隔医療に対する特別交付税措置の拡充
6. 連携中枢都市圏の形成に対応した辺地度点数の算定要素の追加

【4. 広域連携の深化に向けて】

- 連携中枢都市圏におけるPDCAサイクルを確立するには、適切なKPIを設定・管理することが重要である。
- 従来の一般的な計画等では十分着目されてこなかった「地域の課題に気付きを与えるもの」として「地域の未来予測」を作成し、議論を重ね、様々な政策や計画に反映する。
- 「地域の未来予想」では、各市町村において、将来、具体的にどのような資源制約が見込まれるのか、その行政需要や経営資源に関する長期的な変化の見通しを、客観的なデータをもとにして整理し、議論を重ね、ビジョンを共有することが重要。
- 「地域の未来予想」では、人口構造の変化や施設・インフラのほか、これらの影響を大きく受けるものとして、「子育て・教育」「医療・介護」「公共交通」「衛生」「消防・防災」「空間管理」を対象としている。
- 新型コロナウイルス感染症は、これまで十分対応できていなかった課題が顕在化した。DX化もその一例であり、ポストコロナの経済社会に対応する地方制度の整備は急務である。

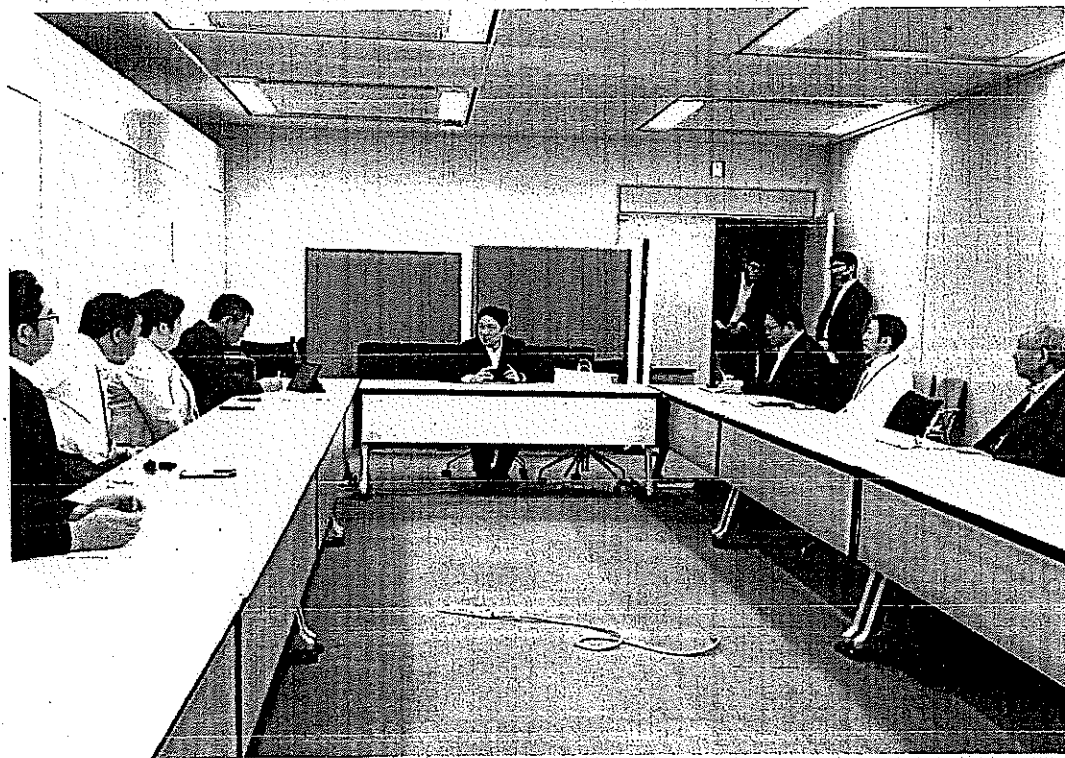
【所感】

総務省自治行政局市町村課より、「連携中枢都市圏の推進」について講義を受けた。日本の人口は2008年の1億2,808万人をピークに減少局面に入り、2040年には1億1,092万人になると予想されている。また、65歳以上の人口は、2042年に3,935万人でピークを迎えるとも予想されている。

担当課の浅見課長補佐からは「八戸市のように議会が積極的に後押しをしている自治体は全国的にも珍しい」というお話があり、八戸圏域連携中枢都市圏において、これまでの成果が評価されているように感じた。

今後の人口減少により、「公営企業の料金の上昇」、「乗合バス・鉄道の廃止路線の増加」、「中間地域での集落機能の維持困難」などが起こるおそれがある。こうした変化や課題に的確に対応し、持続可能な形で住民生活を支えるためには、地方公共団体がそれぞれの強みを活かし、資源を融通し合うなど、当市において今後も地域の枠を超えた更なる連携が重要であると考えます。

今回の視察で学んだ事を持ち帰り、今見えている課題や今後予想される課題に対して活かして参りたい。





令和6年11月8日

会派名 公明党

代表者名 中 村 益 則 様

氏 名 土 嶺 直 樹



調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

1 旅行者 土 嶺 直 樹 議員

2 期 間 令和7年1月27日（月）～令和7年1月30日（木）

3 場 所 神奈川県横須賀市、高知県須崎市、高知県南国市

4 目的及び内容

神奈川県横須賀市

「我が国の海洋研究を推進する市議会議員連盟」

海洋フォーラム等

高知県須崎市

住友大阪セメント株式会社高知工場について

高知県南国市

高知大学海洋コア総合研究センターについて

5 支出可能額（上限額） 146,070円

【内訳は、旅費額計算書（第4号様式）に記載のとおり】

旅 費 額 計 算 書

旅 行 日 程				旅 費 計 算 の 基 礎					
行	1/27	八戸駅発 8:11	区 分	基 数	単 価	金 額	備 考		
き	1/27	横須賀中央駅着 13:15	早見表						
帰 り	1/30	はりまや橋発 9:35							
	1/30	八戸駅着 17:04							
経路・滞在地 別紙のとおり				鉄道運賃	694.3k	10,340	18,600	八戸⇄横須賀（往復割引）	
				急 行 料 金	特	2	6,270	12,540	八戸⇄東京 631.9k
						2	△200	△400	閑散期割引 (1/27, 1/30)
				急					
				特別車両 料 金		2	5,600	11,200	八戸⇄東京 631.9k
				京浜急行電鉄		1	670	670	横須賀中央→京急蒲田 →羽田空港
				京浜急行バス		1	200	200	横須賀駅→横須賀中央駅
				航 空 機		1	43,640	43,640	羽田空港⇄高知竜馬空港
				モノレール		1	520	520	羽田空港→浜松町
				連絡バス		2	900	1,800	高知竜馬空港⇄はりまや橋
				貸切バス ※		1	19,800	19,800	宿泊ホテル⇄視察先
				宿泊料		3	12,500	37,500	横須賀市内泊(1/27)
									高知市内泊(1/28, 1/29)
小 計						146,070			
合 計（小計×人数）						146,070	1名		

※ 貸切バス代・総額を本視察に参加した人数で案分して計上。

99,000 円（総額）÷5 名（参加人数）=19,800 円

土嶺議員

・日程：令和7年1月27日（月）～30日（木）
・場所：神奈川県横須賀市・高知県須崎市・高知県南国市

月 日	行 程	宿泊地
1月27日 （月）	8:11発 八戸 → （はやぶさ10号） → 東京 → （JR横須賀線） → 逗子 → （JR横須賀線） 12:45着/13:09発 横須賀 → （京浜急行バス） → 横須賀中央 → （移動） → セントラルホテル 13:15着/13:20発 横須賀中央 → （移動） → セントラルホテル 13:25着/13:45～19:00 （海洋フォーラム等） 12:30着/12:35発 逗子 → （JR横須賀線）	横須賀市内
1月28日 （火）	8:10～11:00（途中退席） 横須賀市内 → （移動） → 横須賀中央 → （京浜急行電鉄・快特） → 京急蒲田 → （京浜急行電鉄空港線 特急） 12:35着/13:35発 羽田空港 → （JAL495） → 高知電馬空港 → （連絡バス → はりまや橋 → （移動） → 16:00着 とさでん交通） 15:05着/15:30発 高知電馬空港 → （連絡バス → はりまや橋 → （移動） → 宿泊先 12:15着/12:25発 京急蒲田 → （京浜急行電鉄・快特） → 京急蒲田 → （京浜急行電鉄空港線 特急） 15:50着/15:55発 はりまや橋 → （移動） → 宿泊先 9:20着/9:30～11:30/11:30発 須崎東IC → 住友大阪セメント(株)高知工場 → （貸切バス） → 須崎東IC （高知自動車道） （視察） 13:50着/14:00～16:00/16:00発 高知電馬空港IC → JAMSTEC高知工ア研究所 → （貸切バス） → 宿泊先 （高知東部自動車道） （視察）	高知市内
1月29日 （水）	8:30発 宿泊先 → （貸切バス） → 高知JCT → 高知電馬空港IC → 高知電馬空港IC → 高知電馬空港IC （高知東部自動車道） 9:10着/9:35発 はりまや橋 → （移動） → 高知電馬空港IC → （連絡バス → とさでん交通） 10:00着/11:20発 高知電馬空港IC → （JAL494） → 羽田空港 12:35着/13:10発 羽田空港 → （はやぶさ27号） → 八戸 13:28着/13:38発 浜松町 → （JR京浜東北線） → 東京 → （はやぶさ27号） → 八戸 17:04着 八戸	高知市内
1月30日 （木）	9:00発 宿泊先 → （移動） → 高知JCT → 高知電馬空港IC → 高知電馬空港IC → 高知電馬空港IC （高知東部自動車道） 9:10着/9:35発 はりまや橋 → （移動） → 高知電馬空港IC → （連絡バス → とさでん交通） 10:00着/11:20発 高知電馬空港IC → （JAL494） → 羽田空港 12:35着/13:10発 羽田空港 → （はやぶさ27号） → 八戸 17:04着 八戸	高知市内

令和7年2月3日

会派名 公明党

代表者名 中村益則様

氏名 土嶺直樹



調査視察等報告書

令和6年11月8日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告します。

- 1 旅行者 土嶺直樹議員
- 2 期間 令和7年1月27日（月）～令和7年1月30日（木）
- 3 場所 神奈川県横須賀市、高知県須崎市、高知県南国市
- 4 行程 別紙のとおり
- 5 支出額 135,880円
- 6 概要 別紙のとおり

・日程：令和7年1月27日（月）～30日（木）
・場所：神奈川県横須賀市・高知県須賀市・高知県南国市

土嶺議員

月日	行程	宿泊地
1月27日 （月）	8:11発 八戸 → （はやぶさ10号） → 東京 → （JR東海道本線） → 横浜 → （京浜急行電鉄・特急） → 12:20着 横須賀中央 → （移動） → セントラルホテル 13:45～19:00 （海洋フォーラム等）	横須賀市内
1月28日 （火）	8:10～11:00 横須賀市内（視察） → （移動） → 横須賀中央 → （京浜急行電鉄・快特） → 京急蒲田 → （京浜急行電鉄空港線・特急） 12:35着/13:35発 羽田空港 → （JAL495） → 15:05着/15:30発 高知竜馬空港 → （連絡バス） → 15:50着 はりまや橋 → （移動） → 18:00～ とさでん交通 宿泊先 懇親会	高知市内
1月29日 （水）	8:30発 宿泊先 → （貸切バス） → 須崎東IC → 住友大阪セメント(株)高知工場 → （貸切バス） （西鉄イン高知はりまや橋付近）（高知自動車道）（視察）（一般道・国道56号） → 12:00着/13:00発 道の駅かわうその里すさき（昼食） → 須崎中央IC → 高知IC → 高知竜馬空港IC 13:55着/14:00～16:00/16:10発 JAMSTEC高知コア研究所 → （貸切バス） → 宿泊先 （視察）（一般道・国道55号）（西鉄イン高知はりまや橋付近）（高知自動車道）（高知東部自動車道）	高知市内
1月30日 （木）	9:00発 宿泊先 → （移動） → 9:10着/9:35発 はりまや橋 → （連絡バス） → 10:00着/11:20発 高知竜馬空港 → （JAL494） → 12:35着/13:10発 羽田空港 → （東京モレール） → 13:28着/13:38発 浜松町 → （JR京浜東北線） → 13:42着/14:20発 東京 → （はやぶさ27号） → 17:04着 八戸	

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項 目	調査研究費	費 目	旅費	整理番号	/ - /
領 収 書 等 貼 付 欄					

領 収 証

No. 123688

2025年 / 月 22日

土 願 直 樹 様

金 額	¥	1	2	4	5	8	0
-----	---	---	---	---	---	---	---

但し新幹線、JR、バス、貸切バス代として

10%対象(税込) 124580 0%対象

内 消費税 12458円 上記の金額正に領収致しました。



現 金	✓
小切手	
振 込	
クレジット	



株式会社 北日本トラベル

登録番号 T1420001005756

〒031-0041 青森県八戸市二十三日町4-1 NDビル1F

TEL (0178) 22-5151(代)

扱 者 印



※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

ご旅行代金明細書

市議会議員連盟

御中

令和7年1月14日

北日本トラベル株式会社

店長 大久保 正人

青森県八戸市廿三日町4-1

電話 0178-22-5151

担当

登録番号 T1420001005756

ご依頼賜りました件につきまして、下記の通り請求させていただきます。

ご不明な点がございましたら担当者までお問い合わせ頂きます様お願い申し上げます。

参加人員 大人 4名

計 5名

ご旅行期間 令和7年1月27日～1月30日

ご旅行方面 神奈川県横須賀市・高知県はりまや町 方面

行程 ご依頼を頂いた別紙の通りとなります。

総旅行代金

452,100円

明細内訳

項目	人員		台数 人数	ご利用 運賃・料金	小計	区間・備考
JR代	4	41,340			165,360	八戸/本八戸～横浜(往復)
航空機代	2	43,640			87,280	1/28～30 羽田～高知(往復) 土嶺議員・立花議員
	1	35,060			35,060	1/28～30 羽田～高知(往復) 日當議員
宿泊代	1	19,800			19,800	1/28泊 西鉄イン高知はりまや橋朝なし
	2	22,800			45,600	1/28泊 西鉄イン高知はりまや橋朝付き
マイクロバス代	1	99,000			99,000	1/29 高知駅前観光 27名乗り
		99000÷5名=19800				
明細金額小計					452,100	
取消料						
現地支払代金				△		
明細金額合計					452,100	消費税10% 41,100円

特記事項

領 収 書 等 貼 付 用 紙

請 求 書・領 収 書

RECEIPT

 セントラル ホテル
CENTRAL HOTEL

登録番号: T2021001043018

〒238-0007 神奈川県横須賀市若松町2-8

TEL: 046-827-1111

FAX: 046-825-0837

E-Mail: front@central-h.co.jp

URL: http://www.central-wedding.com/

お部屋番号 736 お名前 土嶺 直樹 様
ROOM No. NAME

到着日 ARRIVAL	出発日 DEPARTURE	人数 PERSON(S)	発行日 ISSUED	備 考 REMARKS
2025/01/27	2025/01/28	1	2025/01/28	

日 付 DATE	お部屋番号 ROOM No.	摘 要 DESCRIPTION	料 金 CHARGES	お預り金 DEPOSIT	残 高 BALANCE
01/27	736	ご宿泊料金	9,500		
01/27	736	*お 預 り 金 お支払い		9,500	0

総合計 TOTAL	10%対象(税込) CHARGES	お預り金 DEPOSIT	ご 請 求 金 額 BALANCE DUE	ご返金額 REFUND	10%対象消費税額 宿舎分の消費税は含みません
	9,500	9,500	0	0	863

会 社 名
COMPANY NAME

28020042P6002030718

CA

ご 住 所
ADDRESSご署名
SIGNATURE

ありがとうございます。またのご利用をお待ち申し上げます。

Thank you for staying with us. We look forward to the pleasure of serving you again.

EIG※

日付 2025/01/28

領 収 書
RECEIPTお名前 土嶺 直樹 様
NAME金 額
AMOUNT DUE ¥9,500

10%対象合計: 9,500 10%対象消費税: 863

ご宿泊代として

上記金額確かに領収致しました
We have receipt your payment. セントラル ホテル
CENTRAL HOTEL
登録番号: T2021001043018
〒238-0007 神奈川県横須賀市若松町2-8
TEL: 046-827-1111
FAX: 046-825-0837
E-Mail: front@central-h.co.jp
URL: http://www.central-wedding.com/

領収書等貼付用紙

項目	調査研究費	費目	旅費	整理番号	1-3						
領収書等貼付欄											
領収書 土嶺直樹 様 2025年 1月28日 (火) 15:24 002号機 ¥900- 上記金額を領収いたしました 但し バス乗車代として とさでん交通株式会社 株式会社高知駅前観光 とさでん交通株式会社 領収書 空港連絡バス乗車券代 2025年 1月30日 (木) 09:26 001号機 大人 @900× 1枚 <table><tr><td>合計</td><td>900円</td></tr><tr><td>お預り</td><td>1,000円</td></tr><tr><td>おつり</td><td>100円</td></tr></table> 上記金額を領収いたしました						合計	900円	お預り	1,000円	おつり	100円
合計	900円										
お預り	1,000円										
おつり	100円										

※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

【開催日時等】

○日時：令和7年1月27日（月）～28日（火）

○場所：神奈川県横須賀市

・横須賀海洋フォーラム：セントラルホテル（横須賀市若松町2-8）

・横須賀海洋フォーラム視察：横須賀市内（海上自衛隊横須賀総監部、JAMSTEC 本部）

【参加議員】

・ 土嶺 直樹

【視察概要】

1 横須賀海洋フォーラム

(1) 基調講演

○演題 「ブルーカーボンについて」

○講師 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合 理事長 桑江 朝比呂 氏

○概要

- ・このまま対策を講じなければ、地球温暖化による経済的損失は今世紀末に対 GDP 比で5%に達し、対策がうまくいったとしても1%程度になると予測されている。日本では5～25兆円になる勘定で、差分の4%を何とかすることが課題である。
- ・日本も2050年のカーボンニュートラルを宣言したが、対策に努めたとしても2050年時点で10～30%の残余排出が出るといわれており、10%としても年間1億トンの二酸化炭素の吸収・除去が必要である。日本の自然系の吸収・除去量は、森林による吸収をメインに年間5,000万トン程度であるが、今後森林の高齢化に伴い吸収量の低下が予測されている。
- ・海草や海藻によるブルーカーボンは炭素の貯留能力が高く、かつ現在想定されている吸収・除去技術のうちで最も総合評価が高いため世界的に注目されている。しかし、必要な吸収量を確保するには天然の藻場の維持・造成だけでは足りず、海藻養殖の拡大が不可欠である。
- ・多くの企業が二酸化炭素の排出ゼロやマイナスを目標に掲げており、排出オフセットのためのカーボンクレジットに対する需要が拡大している。しかしながら、藻場の造成など海洋における吸収源の創出は、これまで自治体や漁業者、市民団体などによるボランタリーなものにとどまっており、公共事業による取組にも財政的な限界がある。
- ・ブルーカーボンの取組を社会実装するためには、ヒト・カネ・モノとこれらをつなぐ仕組みが必要である。そこでジャパンブルーエコノミー技術研究組合（JBE）を組織し、カーボンクレジットにより企業からの資金還流を実現するための仕組み（Jブルークレジット）についての社会実験を進めている。
- ・藻場の回復・造成、海藻養殖、人工構造物を利用した海藻培養など、海草・海藻を増やす取組の全てがクレジットの対象となるが、取組を通じて取組以前に比べて、また取組が行われていない場所に比

べて、二酸化炭素の吸収量が増えていることが定量的に示されること、クレジット販売による資金獲得が取組の継続に必要であることが客観的に示されることが基本的な条件である。

- ・クレジットの認証件数は、2020 年の 1 件から 2022 年には 21 件と急速に拡大しており、吸収量、販売金額も急速に拡大している。ブルーカーボンの取組は海域の環境改善や生物多様性保全にも効果を持つことが特徴であり、それが価格にも反映されている。
- ・ブルーカーボンの拡大には人工構造物の利用など新しい基盤の積極的な利用が不可欠であり、生産・生育過程のモニタリングのための計測技術の開発・運用も課題である。また、関係者にとって楽しく、儲かることが取組の発展・継続の鍵である。

(2) 事例発表

①「JAMSTEC の海洋 STEAM 教育」

発表者 国立研究開発法人 海洋研究開発機構

海洋科学技術戦略部 海洋 STEAM 推進課 課長 市原 盛雄 氏

概要 次世代の海洋人材育成につながる取組として、新たに「海洋 STEAM プロジェクト」を開始。教科等横断的な学習の STEAM 教育に着目し、学習指導要領に沿った海洋 STEAM 教材を学校教育現場で活用。地方自治体との連携によって実際に行った授業の事例など、これまでの取組状況と今後の展望について紹介。(詳細は配付資料を参照)

②「マリエント「ちきゅう」たんけんクラブの活動」

発表者 八戸市水産科学館マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ

杉本 よし埜 氏、川口 慶治 氏、岩岡 美彩希 氏、平 希望 氏

概要 2007 年はちのへ「ちきゅう」情報館オープンと「ちきゅう」たんけんクラブ発足の経緯や会員の推移、近年の活動内容に関するもので 2024 年 5 月に開催された地球科学分野で国内最大の学会である JpGU (日本地球惑星科学連合) の大会で発表されたレポートを紹介。具体的には岩手県洋野町にある「辰の口」という岬のジオサイトとしての適性や魅力についての調査や考察など三陸ジオパークの魅力を全国に発信するものであった。今後は地域振興の可能性を考慮し、新たなコンテンツの開発と三陸ジオパークを世界ジオパークにするために協力していくという意欲のある発表であった。(詳細は配付資料を参照)

③「横須賀海洋クラブによる活動報告 ～ブルーカーボン生態系の保全に向けて～」

発表者 一般社団法人 BlueArch 代表理事 武藤 素輝 氏

横須賀海洋クラブ 大木 葵 氏

概要 一般社団法人 BlueArch はドローンと AI 技術を用いたブルーカーボン生態系の調査手法を開発し、調査結果が国内初の J ブルークレジット認証を取得した。これにより、従来の潜水調査手法に比べ効率性とコスト面での優位性が証明され、ブルーカーボンの保全や気候変動対策、生物多様性の保全促進に寄与している。

神奈川県内の調査では、水中ドローンや空中ドローンを使用し、AI 解析を活用して藻場の二酸化炭素の吸収量や分布面積を正確かつ効率的に算定しており、従来の手法に比べ、広域調査の実現やコスト削減効果が確認された。今後はさらに調査手法の高度化やパートナーシップの強化を通じ、海洋生態系保全の推進を目指している。

次に、横須賀海洋クラブの久木氏より同クラブのブルーカーボン推進に向けた具体的な事例を発表。(詳細は配付資料を参照)

④「海洋人材育成と NME の取組」

発表者 日本海洋事業株式会社 (NME) 代表取締役社長 山田 正克 氏

概要 同社は海にまつわる調査・工事・教育という 3 つのフィールドで、その最前線を支える 3 つの事業を展開している。

○海洋知識と高い運航技術を活かした調査船や実習船などの運航管理をする運航事業。

○大気・海洋・地殻を対象にした調査データの解析や観測装置の運用を行う調査事業。

○深海調査における水中探査機の運用管理を主軸に、洋上風力発電や海底ケーブルに関する水中工事で活躍する大小様々な ROV のオペレーションを支援する水中機器事業。

これらの事業を推進し、未来を担うクリーンエネルギーへの貢献の先に、子どもたちの探求心があふれる未来をつくるというビジョンの実現を目指している。

(詳細は配付資料を参照)

2 横須賀海洋フォーラム視察 (海洋関連施設)

①海上自衛隊 横須賀基地

○護衛艦「いなづま」 艦内見学

・艦 種 むらさめ型護衛艦の 5 番艦 (日本の主力汎用護衛艦)

・就 役 2000 年 3 月 15 日

・定係港 呉港 (訓練のため横須賀入港中)

・基準排水量 4,550t

・主要寸法 長さ151m、幅17.4m、深さ10.9m

・主機械 ガスタービン×4基、プロペラ2枚

・速 力 30kt (時速50km強)

・主要兵装 20ミリ機関砲、76ミリ速射砲

対空、対潜水艦ミサイル、魚雷発射管、対艦ミサイル、哨戒ヘリコプター

・乗 員 約165人

○潜水艦「とうりゅう」艦内見学 (※防衛機密の関係により写真撮影禁止)

・艦 種 そうりゅう型12艦中の5番艦と11番艦

・艦 齢 約5年

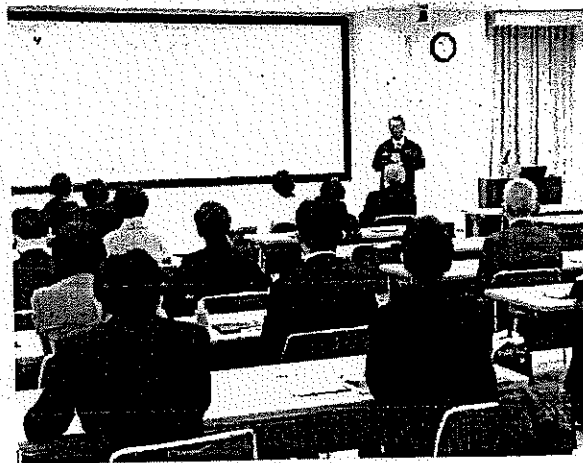
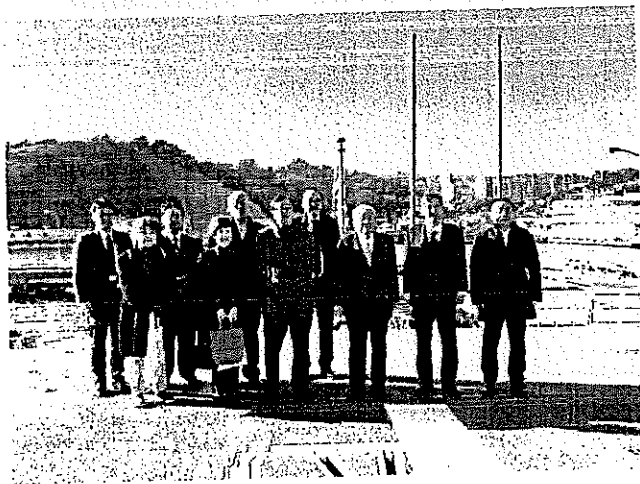
・基準排水量 2,950t (原子力潜水艦以外では世界最大級)

- ・主要寸法 長さ84m、幅9.1m、深さ10.3m、喫水8.5m
- ・主機械 ディーゼル2基（発電用）、モーター1基（推進用）
- ・電池 リチウム
- ・時 速 約32km（水中）、約21km（水上）
- ・主要兵装 魚雷、対艦ミサイル
- ・乗 員 機密事項

②国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）横須賀本部

- ・理事長 大和 裕幸 氏 挨拶
- ・地球深部探査船「ちきゅう」研究航海「日本海溝巨大地震・津波発生過程の時空間変化の追跡（JTRACK）」報告
- 共同主席研究者・研究担当理事 小平 秀一 氏
- ・潜水調査船、無人探査機 視察
- ・海洋科学技術館 視察

【視察の様子】



【所感】

今回のフォーラムではブルーカーボンについて深く学ぶことができた。今まで具体的にどのようなものかが分からずにいたが、基調講演や事例発表での話で理解することができた。二酸化炭素の排出を抑えるために、世界では様々な取組をされている。しかし、ブルーカーボンの生態系を維持していくためには、環境の変化と合わせた課題解決をしていかなければならない。なかなか身近に感じられないものではあるが、他都市や世界の事例を参考に当市としてもさらに取組むべきことであると感じた。

自衛隊は平時からの対応として、警戒監視を行っている。各種事態に際し、自衛隊が迅速に対応するために、領海・領空とその周辺を常時警戒監視し、情報の収集・処理にあたっている。哨戒機などにより航行する船舶などの状況を監視するほか、ミサイル発射に対する監視など、周辺海域における警戒監視活動を行っている。

隣国からミサイルが発射されたり、領海に侵入されたりしている昨今、ますます不安定化する日本を取り巻く安全保障環境下において、海上自衛隊の護衛艦や潜水艦の役割は重要であると感じる。

今回は実際にそれぞれの艦内を見学させていただき、担当ごとの役割や生活を知ることができた。その中で居住区にある寝室は、2～3段のベッドになっている。潜水艦においては艦内のスペースが限られているため、魚雷発射管室にも空いているスペースを活用して、寝室にすることもあるとのこと。プライベート空間の確保が容易ではない艦内ではストレスも大変大きなものである。

経費を抑えるために潜水艦の魚雷発射訓練では、訓練用魚雷を使用し、その後は可能な限り回収して、繰り返し使用しているとのこと。また、地元議員との会話の中で「給料や処遇の改善をしていかなければ、自衛隊の維持・存続も厳しい」とあった。当市においてもそういった話を耳にしている。現場の方々と一緒に取組んでいくべき課題です。

今回の視察(見学)内容を当市へ持ち帰り、先の課題を国・県と連携して改善に向けて取組んでまいりたい。

調査視察 報告書

1 視察地：高知県須崎市 住友大阪セメント株式会社 高知工場

1-1 視察日時

1-2 対応者

1-3 視察目的

1-4 座学および工場視察

2 視察所感

1 視察地：高知県須崎市 住友大阪セメント株式会社 高知工場

1-1 視察日時

令和7年1月29日（水）9:30～11:30

1-2 対応者

住友大阪セメント 高知工場 工場長 廣島 雅人 氏

住友大阪セメント 高知工場 副工場長 富川 修次 氏

住友大阪セメント 高知工場 業務課長 足立 泰史 氏

1-3 視察目的

住友大阪セメント株式会社高知工場では、産業活動から排出される産業廃棄物の他にも、暮らしのなかから排出される一般廃棄物のセメント資源化にも取り組まれている。また、一般廃棄物焼却灰のセメント資源化は、埋立処分場の延命だけではなく、環境負荷低減につながる事業であり、更なる地域社会への貢献と循環型社会の構築に貢献できるものとして取組をされている。

そして、セメント工場での資源リサイクルを行い、そのリサイクルによるエネルギー代替推進、省エネルギー設備導入の推進をされており、当市としても循環型エネルギーの活用先進事例として参考に資するものである。

1-4 座学および工場視察

【足立氏の講義より】

- セメントの原料は石灰石・粘土・珪石・鉄原料・石膏であるが、粘土・鉄原料・石膏は、ほぼ全量廃棄物・副産物で代替している。
- エネルギーは通常、石炭と電力を使用している。石炭は廃タイヤ、廃プラスチック、木屑等で削減している。電力においては、廃熱発電 10%・自家発電 90%で自家発電率は 100%となっている。
- 原料粉砕機では、セメント原料と類似した成分の廃棄物・副産物を原料代替として大量に使用できるため、二次廃棄物が出ない。
- 焼成工程では、クリンカ鉱物を得るために 1,450℃で焼成することでダイオキシンの発生を少なくしている。また、石炭の灰もクリンカ鉱物となるため、2次廃棄物が発生しない。
- 仕上げ工程では、セメントの硬化時間を調整するため、クリンカに石膏を 4%程度添加して粉砕する。石膏は主に副産物の排脱石膏で、他に JIS 規格で石灰石や高炉スラグを 5%まで添加できる。また混合セメントも生産できる。
- 2023 年度の主な廃棄物使用量では石炭灰 507,964 t、建設発生土 191,290 t、高炉粉 86,124 t、下水汚泥 27,958 t、焼却灰 23,280 t、廃プラスチック 7,428 t となっている。
- 廃棄物使用するために、石炭灰（乾灰）貯蔵サイロ、廃タイヤ使用設備、廃プラスチック粉砕機、汚泥受入設備、フロン破壊設備などがある。

【質疑応答】

○発電に関して、水素を活用した発電の研究はどのようにされているのか。

→現在、循環流動層ボイラでの発電をしているため、水素やアンモニウムはなかなか使いづらい部分がある。もし、水素を活用するとなると大幅な改造が必要になってくる。しかし、今後の発電の在り方を検討し始めているところである。

○自家発電をするようになった時期はいつ頃か。

→1988年にディーゼル発電機 5,600kw のものを5台設備した。購入電力費を削減した。さらに1999年 61,000kw の自家発電を設備し、四国電力からの購入をやめる。これにより電気のコストを下げた。

○生産量1/3が海外に輸出しているが、どのように運搬しているのか。

→専用船をすぐそばに配備し、国内も含めてほぼほぼ船で運搬している。国内はトラックで運搬している。

写真

【講義】



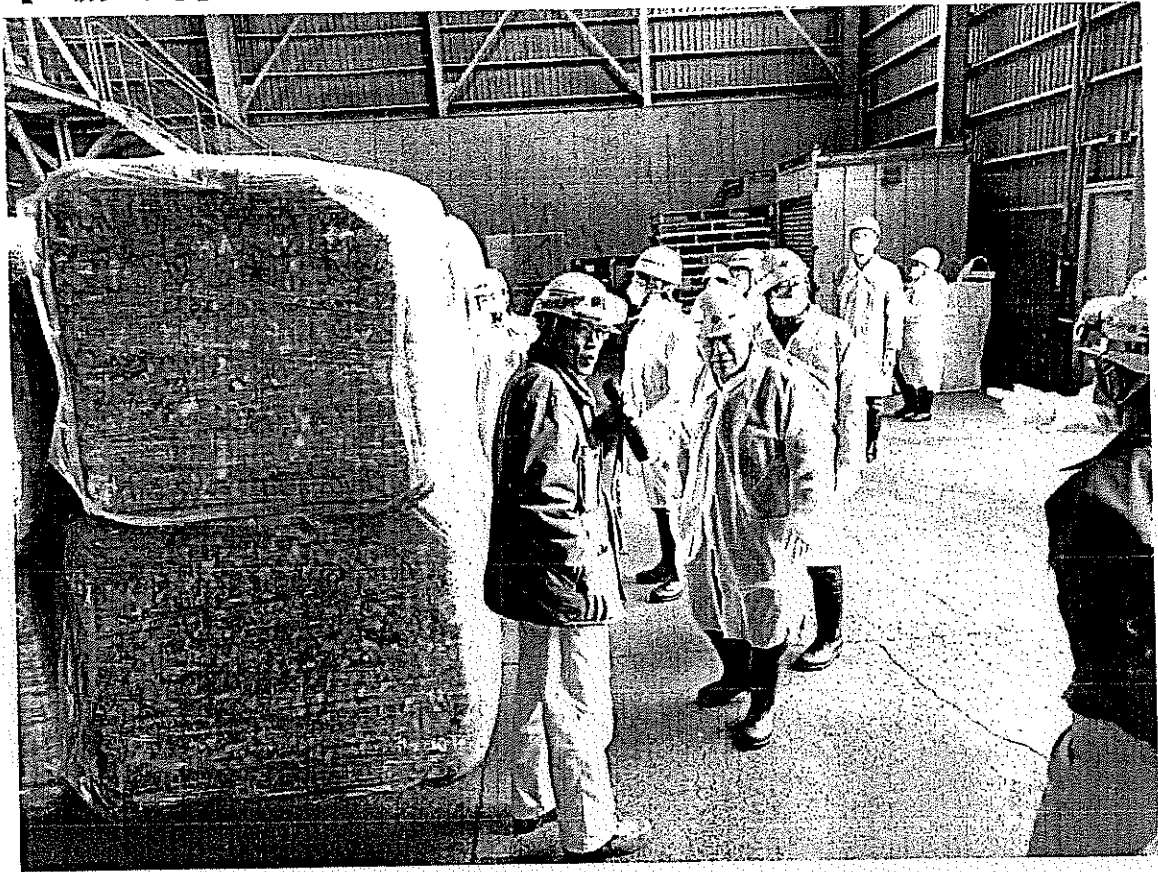
【工場見学①】



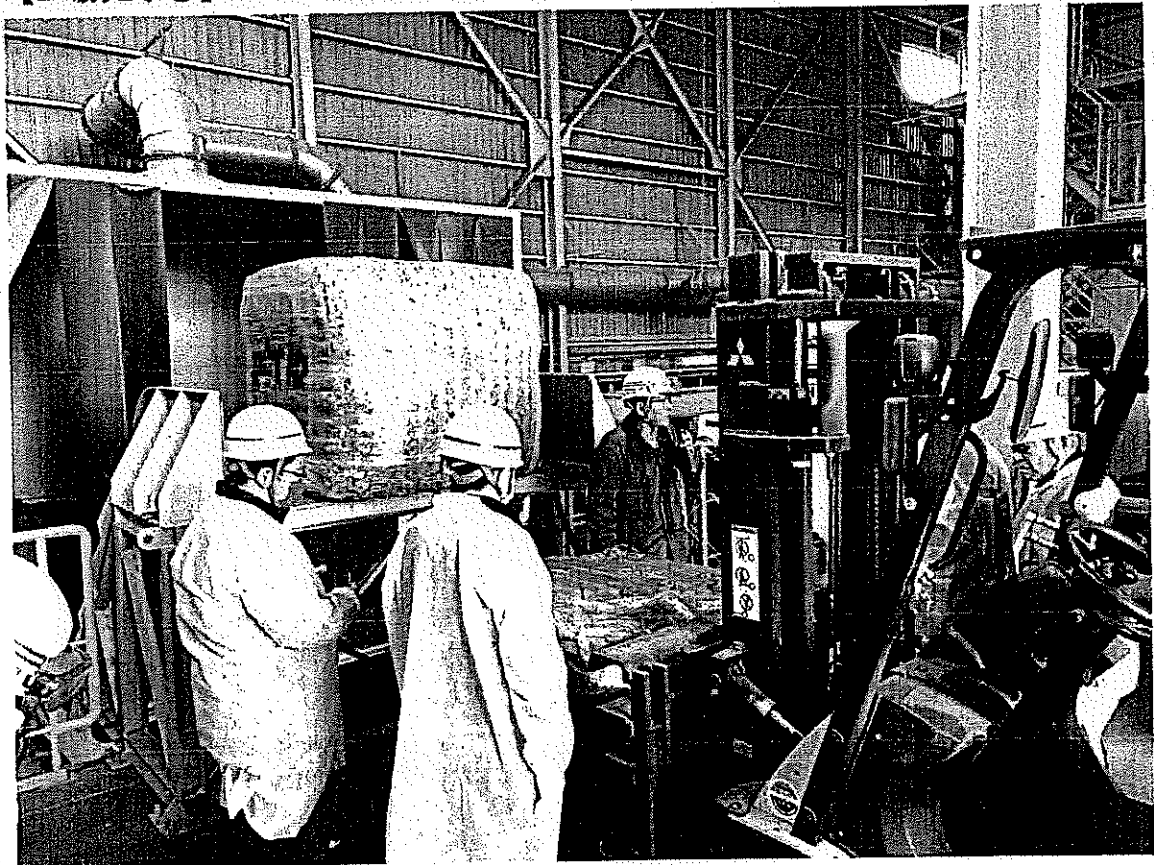
【工場見学②】



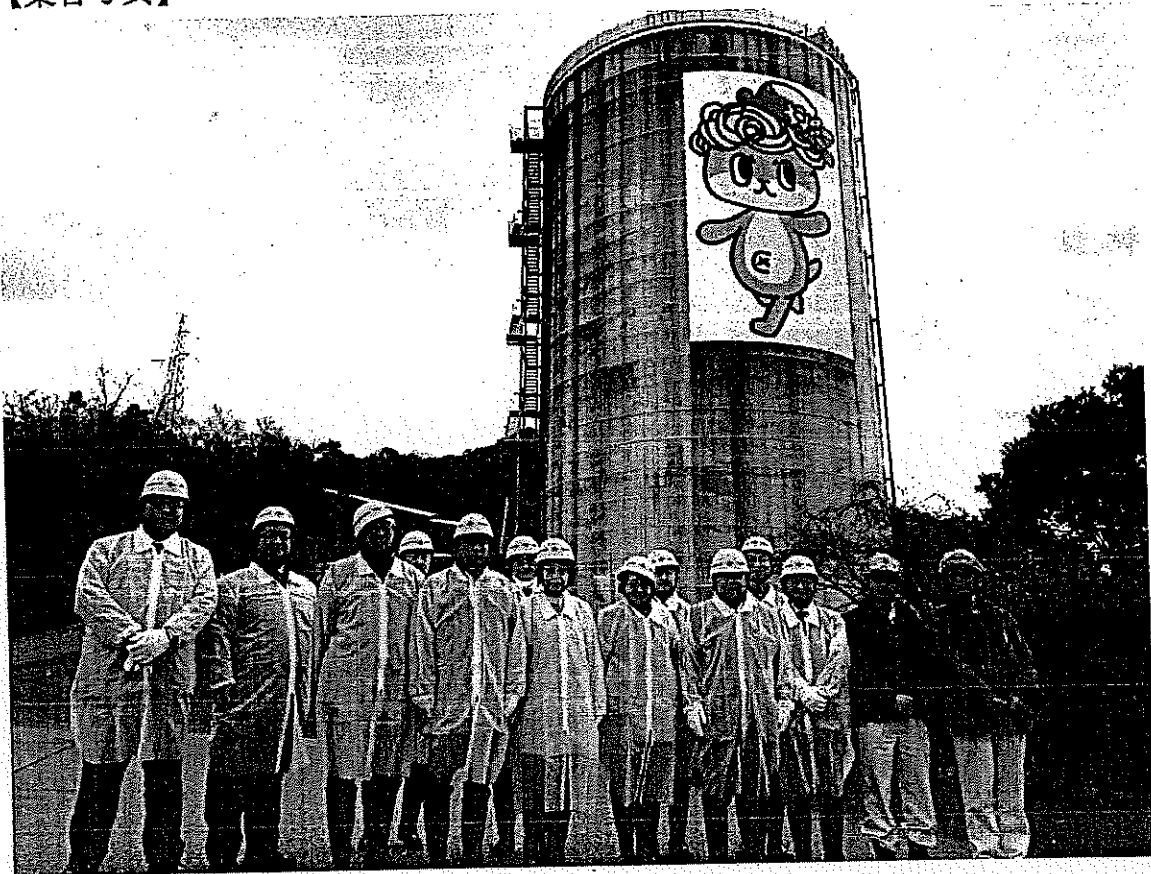
【工場見学③】



【工場見学④】



【集合写真】



2 視察所感

当セメント工場では、原料やエネルギーは代替のものを活用し、電力においては自家発電をしている。コスト削減はもとより、地球環境への配慮、循環型社会に向けた取組がされているのが印象的であり、リニアエコノミーからサーキュラーエコノミーへの転換をされていると感じた。

下水汚泥はセメント原料・熱エネルギーとして活用されている。廃棄物・副産物を原料代替として使用することにより、二次廃棄物が出ないようにもしている。発電においては電力を購入することなく、100%の自家発電で工場を動かしている。また、生活ごみの燃料化も行っている。

当市においては、清掃工場が地域の循環型社会形成を推進している。第一工場は余熱利用の一環として、給湯や冷暖房の他に発電設備を有し、焼却運転に必要な電力の大部分をまかない、エネルギーを有効利用している。しかし、地域循環型社会形成推進地域計画にある「廃食用油からBDFを製造し、軽油の代替燃料としての活用」や「不燃物残渣の再資源化」は進んでいないように思われる。

今回の視察内容を当市に持ち帰り、また八戸セメントでも行われているリサイクル事業も学びつつ、早期に環境整備が実現するよう取り組んでまいりたい。

調査視察 報告書

1 視察地：高知県南国市 海洋研究開発機構 高知コア研究所

- 1-1 視察日時
- 1-2 対応者
- 1-3 視察目的
- 1-4 座学および研究所視察

2 視察所感

1 視察地：高知県南国市 海洋研究開発機構 高知コア研究所

1-1 視察日時

令和7年1月29日（水） 13:00～15:00

1-2 対応者

国立研究開発法人 海洋研究開発機構 監事 菊池 聰 氏

国立研究開発法人 海洋研究開発機構超先鋭研究開発部門 高知コア研究所
研究所長 廣瀬 丈洋 氏

国立研究開発法人 海洋研究開発機構超先鋭研究開発部門 高知コア研究所
物質科学研究グループ 主任研究員 濱田 洋平 氏

1-3 視察目的

この度、国立研究開発法人海洋研究開発機構研究成果活用促進八戸市議会議員連盟による、先進事例視察が高知県において行われた。高知県南国市に研究拠点を構える海洋研究開発機構超先鋭研究開発部門高知コア研究所（以下：KCC）では、国際深海科学掘削計画（International Ocean Discovery Program :IODP）と過去の掘削計画で採取されたコア試料（地球深部探査船「ちきゅう」をはじめとする掘削船で採取された海底下深くの岩石や海底の泥など）を調査・分析・保管することで、世界の国々の、様々な分野の研究に寄与・貢献をしている。

地震のメカニズムに関する研究（岩石物性研究）もその1つであり、物質科学の観点から、2011年に発生した東北地方太平洋沖地震や、今後発生が危険視されている南海トラフ地震等についても多角的に研究を行っている。

八戸市議会議員連盟としては、KCCが行う研究内容について見識を深めることは、様々な観点からも大変に意義のあることと認識している。今回は議員のみならず、八戸市の教育委員会、商工労働まちづくり部、文化観光スポーツ部の職員が視察に訪れていることから、研究内容に多様な価値を認めていることがうかがえる。

市議会議員連盟の目的は、学んだ内容を市民生活向上へとつなげることであり、より良い方向へとつなげるためにも、各分野の専門である八戸市の執行部職員と共に、KCCの最新の研究成果から学んでいきたい。

1-4 座学および研究所視察

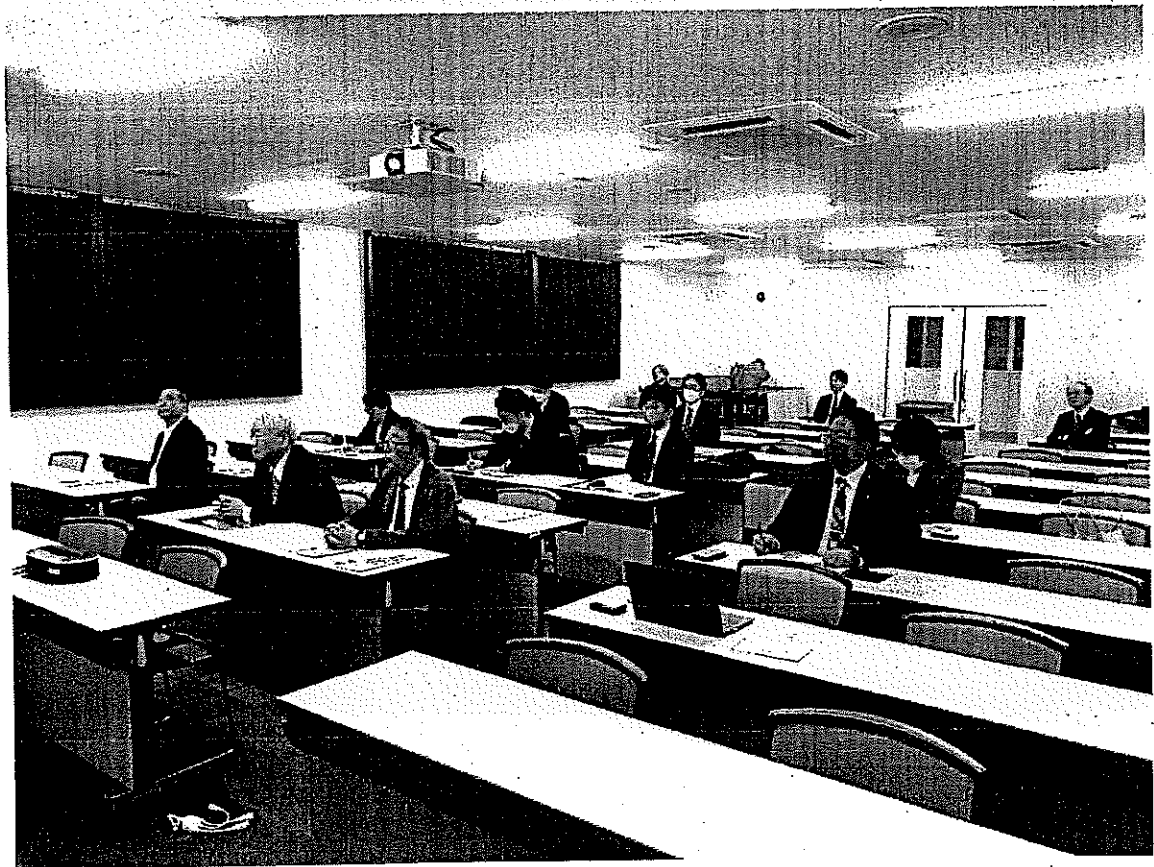
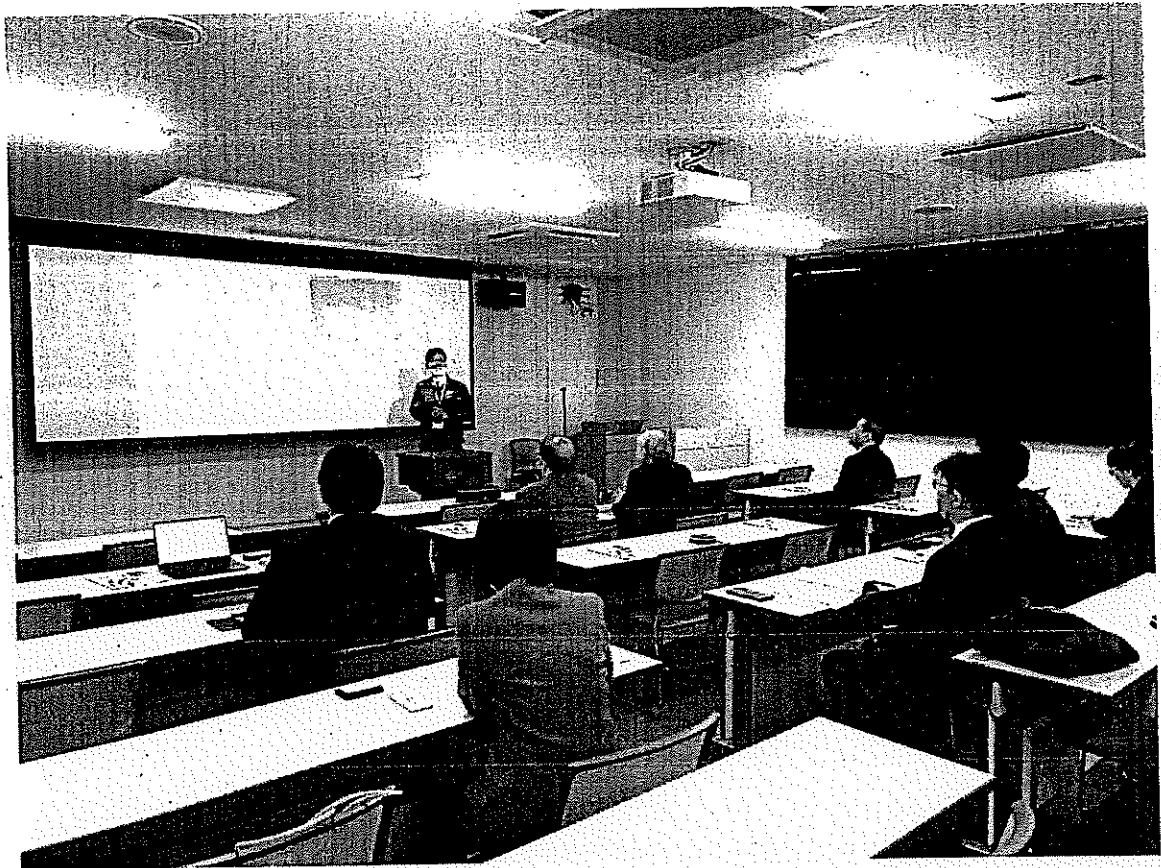
【廣瀬氏の講義より】

- KCCは掘削船「ちきゅう」と共に2005年に設立された。
- コア試料の保管は世界3地点（日本・ドイツ・アメリカ）で行っている。
- 掘削には莫大な費用がかかるため、世界で協力し、研究内容や成果は共有財産としている。
- KCCでは、西太平洋からインド洋で掘削されたコアを保管。
- 互いの研究所は協力体制になっていることから、他地点でのコアが欲しいときは提供してもらうことができる。
- コアの入った管は直径約30cm、長さは約1.5m程あり、半割して保管する。
- コアは地層であることから、それを分析・研究することで「地球の営みの痕跡」を知ることができる。
- 火山噴火や地震の痕跡等、その当時の地球に何があったのかを知ることができる。
- 高知コア研究所は高知大学と共同運営しているが、役割は異なる。
- KCCとしては、人材育成活動やアウトリーチも行っている。
- 大学と行政が協力している例は希少であり、何度か皇族の方々も視察に来られた。
- 連携大学院による教育もしている。研究員は高知大学や広島大学の客員教授としても教鞭を振っている。
- 「ちきゅう」が掘削したコア試料の分析によって、なぜ巨大な地震や津波が起こったのか等を調べている。東北地方太平洋沖地震断層掘削（2012）等。
- 100m以上掘ることによって、過去4万年前までの地震状況を知ることが出来ている。

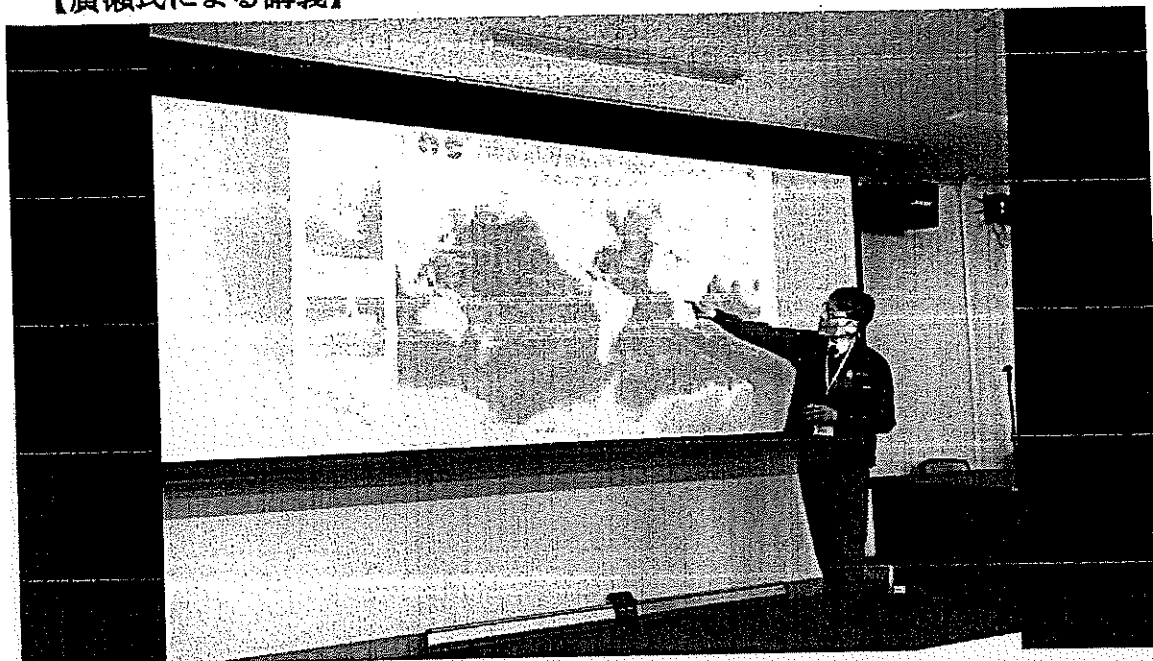
【濱田氏の講義より（コア試料に関する詳細な解説含む）】

- コアサンプルからは、断層岩の特性を把握することができる。
- 地震断層を貫通した孔に設置した温度計により、地震の余熱を検出。地震時の摩擦熱を推定することで、様々な事が読み取れた。
- 2012年の掘削では、推進7000mの日本海溝で850mを掘削。その結果、断層が大きくすべった原因が明らかになった。また、どの程度すべったのかも判明した。
- この研究成果は、国や自治体の防災計画の立案に大きく貢献した。
- 今後の課題としては「超巨大地震震源断層の強度回復・応用蓄積過程を解明する」ことである。

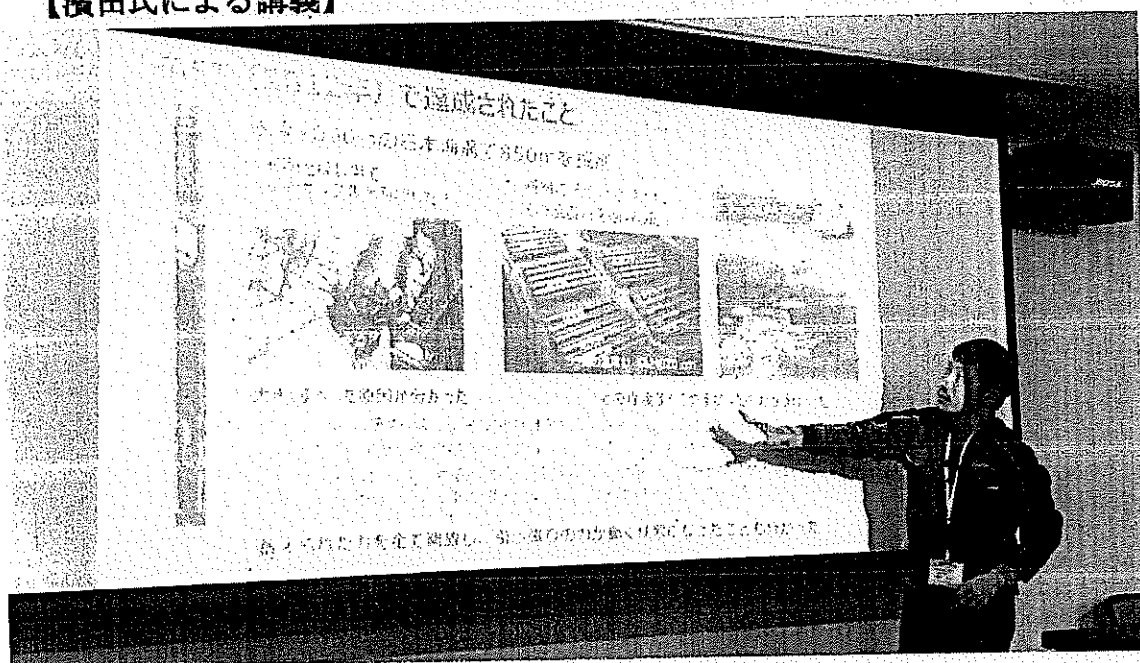
写真



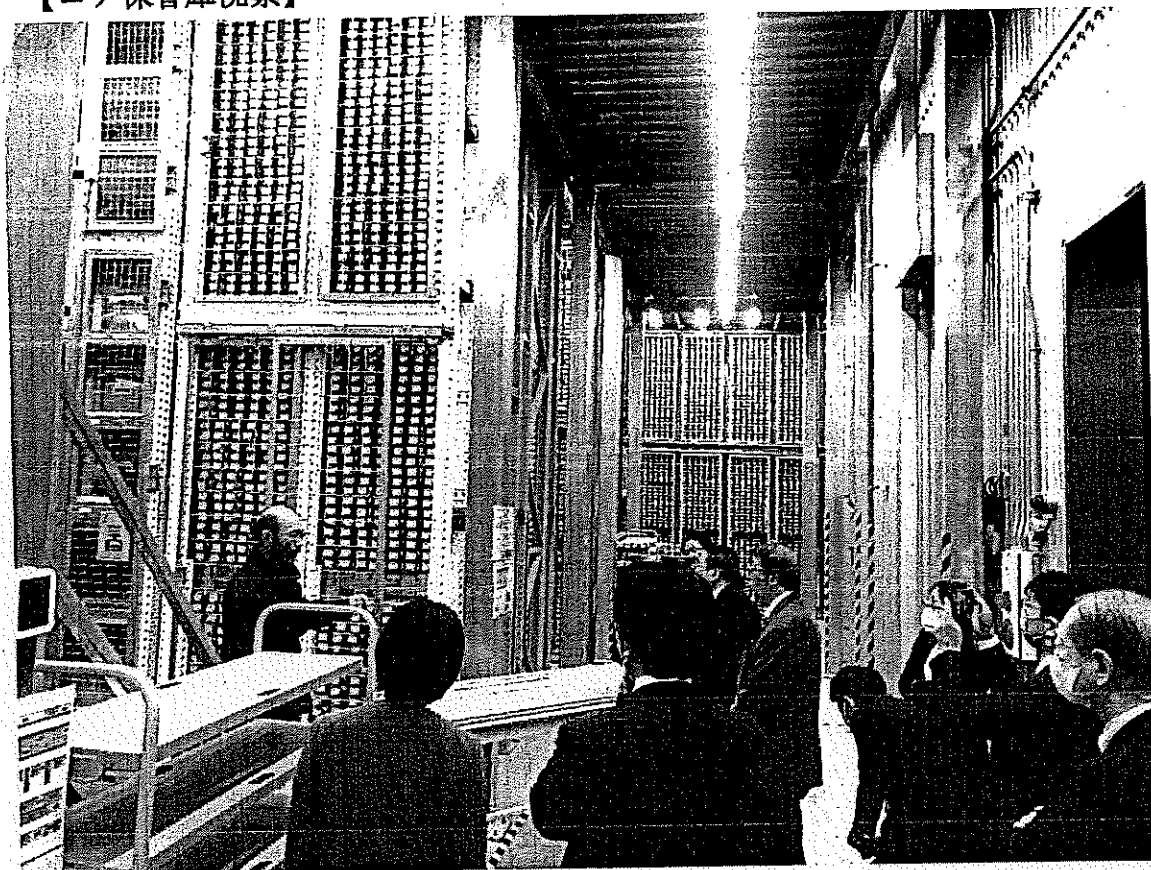
【廣瀬氏による講義】



【濱田氏による講義】



【コア保管庫視察】



【集合写真】



2 視察所感

当研究所では、2012年に東日本大震災に関わる緊急地震調査掘削を行った。地震断層を掘削してサンプルを採取して断層岩の特性を把握し、地震時の摩擦熱を推定した。これにより、断層が大きく滑った原因やどの程度滑りやすくなっていたのか、蓄えられた力をすべて開放して引っ張りの力が働く状態になったことがわかった。巨大地震・津波を起こした断層はどのように強度を回復しているのかを見るため、また、次の地震の準備を始めるために、2024年9月～12月に再度同じ場所で掘削を行った。視察当時はまだコア試料の研究が開始されたばかりだったため、結果はまだわからないが、本年5月にレポートを発表予定しているとのこと。地震に対する備えに繋がることを期待したい。

八戸市水産科学館マリエントにはコア試料の模造品があり、説明パネルが設置されている。2012年、2024年に採取された実際のコア試料の現物を期間限定でも展示し、具体的にどのようなことに繋がっているのかを伝えていくことも重要であると考え。STEAM教育は当市が先行して積極的に携わっており、これと関連して学んでいくことも大いに意義があると感じる。今回の視察で学んできたことを教育、防災、水産などにも還元できるように動いて参りたい。